

震災+design

デザインは避難生活のために何ができるのか

2011年、東京首都圏で阪神・淡路大震災レベルの大地震が発生しました。ある地域では住宅の倒壊等により居住地を失った約300名が近隣の小学校の体育館に一時的に避難しています。避難という非日常時には水不足、治安の悪化、住民同士の衝突等の様々な問題が生じます。それは時として死という最悪の事態にもなりかねません。避難所の中で起こりうる課題を明らかにし、それらを解決するデザインを提案してください。

2009年3月22日(日)・23日(月)

場所：東京ミッドタウン・デザインハブ・インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター
東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F

時間：11:00-18:00
主催：hakuhodo+design (株)studio-L

協力：九州大学大学院芸術工学研究院 ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター
URL：<http://www.h-plus-design.com/1st-earthquake/>

共催：東京ミッドタウン・デザインハブ

プロジェクト概要

日本および世界は現在、地球温暖化、水・食糧不足、エイズ・HIV、少子高齢化、教育崩壊など様々な社会的問題を抱えています。本プロジェクトは、デザインの持つ「美と共感で人の心に訴え、社会にムーブメントを起こす力」を用い、これら社会的課題の解決を試みる産学協同の取り組みです。

第1回テーマ「震災」

日本・世界で緊急度の高い課題（緊急性）、世界に先駆けて日本が直面している課題（先駆性）、この2つの視点で第1回目のテーマを選択しました。阪神淡路大震災から10年以上経過しましたが、日本では新潟、能登、岩手・宮城で、世界でも中国・四川省で近年大規模な地震が発生しました。地震先進国・日本のデザイナーには、震災デザイン領域で世界に対して高い提案性と発信力が求められています。

世界一の自然災害危険都市・東京

ドイツのミュンヘン再保険会社算出の「世界大都市の自然災害リスク指数」によると、東京・横浜は世界主要50都市の中で、自然災害リスクがダントツの1位（710.0ポイント）に格付けされています。これは各都市を「危険発生の可能性」「脆弱性」「危険にさらされる経済価値」の3指標で評価したものです。東京・横浜は20世紀に大地震に襲われたサンフランシスコ（167.0ポイント）、ロサンゼルス（100.0ポイント）、大阪・神戸・京都（92.0ポイント）よりもはるかに高く、世界中のどの都市よりも、地震発生の可能性が高く、住宅の構造や密度面で脆弱で、経済的被害が大きいと評価されているのです。

避難生活者 400 万人発生

内閣府中央防災会議によると、今後30年以内にマグニチュード7クラスの首都直下型地震が起きる可能性は30%と推測されています。その場合の被害は最悪のケースで、死者11000人、建物全壊・火災焼失85万棟、避難者460万人。死という最悪の事態をたとえ免れたとしても460万人が避難生活を強いられる事態が起こりうるのです。本プロジェクトはこの460万人という数字に着目しました。100万人単位の避難生活者が発生する事態に対して、デザインはどんな貢献ができるのでしょうか。

課題

201X年、東京首都圏で阪神・淡路大震災レベルの大地震が発生しました。ある地域では住宅の倒壊等により居住地を失った約300名が近隣の小学校の体育館に一時的に避難しています。避難という非日常時には水不足、治安の悪化、住民同士の衝突等の様々な問題が生じます。それは時として死という最悪の事態にもなりかねません。300名が暮らす避難所の中で起こりうる課題を明らかにし、解決のためのデザインを提案してください。

プロジェクト形式

参加者は学生です。2人1組のチームで応募していただきました。参加各チームが独自のデザイン案を企画し、互いに競い合うコンペ形式（Competition）と参加者が協力し、被災者や外部デザイナーや研究者の意見を取り入れながら、全員で作り上げるワークショップ形式（Workshop）の融合、ワークコンペ形式（Work-compe）のプロジェクトです。

参加大学・大学院・専門学校

プロジェクトの呼びかけに日本全国22の大学、大学院、専門学校より、若きデザイナー44名が社会の現状を憂い、デザインの力を信じ、集まりました。

愛媛大学／大阪市立大学／大阪工業技術専門学校／大阪産業大学／大阪府立大学／関西大学／岐阜大学／九州大学／京都大学／京都造形芸術大学／京都府立医科大学／近畿大学／神戸芸術工科大学／千葉大学／東京女子医科大学／東京造形大学／名古屋工業大学／三重大学／武蔵野美術大学／明治大学／立命館大学（50音順）

デザイン領域

建築、都市、ランドスケープ、プロダクト、グラフィック、情報、デザイン戦略、医療、教育、経済、こども芸術等、多種多様な領域の学生が集まりました。

展示発表会までの経緯

- 2008.08.01 -参加学生の公募
- 2008.09.28 課題共有ワークショップ
参加学生が全国各地から神戸に集まり、避難生活の課題の理解を深め、活発な議論を交わしました。
- 2008.09.28 -デザインアイデアの企画
各チームごとに、オリジナルな課題の発見を試み、デザインアイデアを企画しました。
- 2008.10.31 デザインアイデアの応募締め切り
参加22チームより計114のデザイン案が集まりました。
- 2008.10.31 -第1次選考
実用的ですぐにでも使用できそうなものから、現実味は薄くともユニークなものまで幅広い案が寄せられました。その中から、厳正な審査の結果、11チーム22案が選考されました。
- 2008.12.23 デザイン発表会
通過11チームが各アイデアをブラッシュアップし、その成果を九州大学（福岡）にて発表しました。
- 2008.12.26 被災経験者講評会
阪神淡路大震災の避難経験者の方々に案をみていただき、意見を伺う場を開催いたしました。
- 2008.12.26 -第2次選考
ゲスト審査員、事務局、被災経験者3者の総合評価により、選考を行いました。その結果、最優秀3案と優秀15案を選定いたしました。

今後の予定

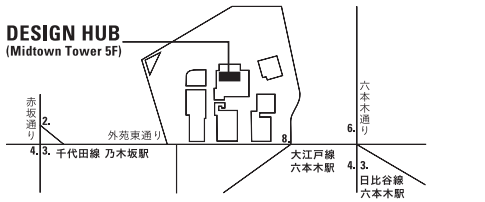
- 2009.03.21 プロジェクト最終報告会
展示発表会の前日に優秀15案をメディア、行政、デザイン、学術関係者に報告する場の開催を予定しております。
- 2009.04月末 展示発表会・神戸（予定）
- 2009.05月 プロジェクト成果の出版（予定）
「デザインが社会のためにできること-避難生活を救う-（仮称）」をNTT出版より刊行予定。

展示発表会概要

2009年3月22日（日）・23日（月）
場所：東京ミッドタウン・デザインハブ・インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター
開催時間：11:00-18:00
展示内容：以下の優秀15案を含む約50デザイン案のボード、模型

- 優秀15案（★は最優秀3案）
- ・Edible City
河合雄介・實方華子（立命館大学）
- ・日常的避難生活-小学校をわたしたちのまちに-
鶴谷一貴（大阪市立大学）・曽根佳恵（大阪府立大学）
- ★Tsumugu
岡本哲弥・林祐太郎（九州大学）
- ★water triage
西川亮・萩原盛之（神戸芸術工科大学）
- ・うつろふ紙
岡本哲弥・林祐太郎（九州大学）
- ・避難生活健康管理チャート
川崎修良（京都大学）・藤戸孝俊（京都府立医科大学）
- ・キーノート
森啓彰・横山雄樹（九州大学）
- ・壘ポスト
森啓彰・横山雄樹（九州大学）
- ・シュシュッとUP
大崎美樹（岐阜大学）・白木彩智（東京造形大学）
- ・かぐや姫化
大崎美樹（岐阜大学）・白木彩智（東京造形大学）
- ・巢み家
神谷美冨・成瀬蓉子（京都造形芸術大学）
- ・避難生活DSでみんなつながる
川崎修良（京都大学）・藤戸孝俊（京都府立医科大学）
- ・スキル共有カード・友助さん
後藤萌・波々伯部佳子（九州大学）
- ・Villanet-ネットで作る震災長屋
松迫崇道・中澤亮惣（千葉大学）
- ★Star Night Project -みんなでつくる避難所
松迫崇道・中澤亮惣（千葉大学）

〒107-6205
東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー 5F



最寄り駅

都営地下鉄大江戸線「六本木駅」
東京メトロ日比谷線「六本木駅」
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」

主催：hakuodo+design（株）studio-L
共催：東京ミッドタウン・デザインハブ
協力：九州大学大学院芸術工学研究院
ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター

問合せ先
-会場について-
九州大学・芸術工学東京サイト（デザインハブ内）
tel 03-3408-9920
-プロジェクトについて-
博報堂広報室 tel 03-6441-6161
（株）studio-L 醍醐 tel 06-4965-4717